様式２

令 和 元 年 度　　自 己 評 価 表

鳥取県立鳥取緑風高等学校

中長期目標 （学校ビジョン）	1　基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成 2　夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成 3　社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成 4　基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上 5　生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実 6　自律性を伴った、生徒の自主性の育成 7　自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成

今年度の 重点目標	1　基本的な生活習慣の定着を促す。 2　生徒が目標を持ち主体的に取り組む授業つくりに努める。 3　個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実に努める。 4　視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実に努める。

年　度　当　初					評 価 結 果　（　　）月		
評価項目	**評価の具体項目**	**現状**	**目標（年度末の目指す姿）**	**目標達成のための方策**	**経過･達成状況**	**評価**	**改善方策**
基本的な生活習慣の定着	生活の自律	○昨年度の定時制昼間部ライフスタイル調査では、就寝時刻が午前１時以降の生徒が４０％と多く、平日の睡眠時間が十分であると評価した生徒は３９％であった。スマホ等のメディア利用平均時間は平日５．３時間と依存度は高い。自由記述には、早寝早起きしたい、睡眠時間を増やしたい、ゲームの時間を改善したい等、生活習慣の課題を自覚している生徒もみられるが改善に至っていない状況がある。 ○朝食をとっている生徒の割合が５５％にとどまる。家庭の協力も得て生活リズムを整える必要がある。 ○身体的および心的な健康管理が苦手であったり、関心が低い生徒がいる。 ○挨拶をはじめとして、コミュニケーションが苦手な生徒がいる。 ○整理整頓や衛生管理が苦手な生徒がいる。	○時間を守り、規則正しい生活時間を過ごすことができる。 ○健康管理に関心を持ち、健康状態の向上に努めることができる。 ○挨拶を交わし、身だしなみを整えることができる。 ○身の周りの美化に配慮し、整理整頓（清掃、ロッカー整理）ができる。	○学業を中心とした健康的な生活を送るために必要な生活習慣について、振り返りをさせるとともに具体例（起床・就寝時刻、睡眠時間、歯と口の健康の保ち方）を提示する。 ○健やかな生活習慣を確立する具体的手立てを考えさせたり、実際に行ったりする場面を設ける。 ○生活習慣の改善について保護者と連携して働きかける。 ○積極的な挨拶や声かけ、丁寧な面談を通して良きコミュニケーションの具体例（対人関係における挨拶ことばや対話）を提示し、習慣づけを働きかける。 ○ロッカー内チェックと整理指導を行う。			
生徒が目標を持ち主体的に取り組む授業つくり	個に応じた学力の向上	○目標を持って真面目に授業へ取り組み、基礎学力を高めている生徒もいるが、様々な要因により学力や授業に臨む姿勢の差が大きい。また、学力が向上したと実感している生徒が少ない。 ○定時制の単位修得率は６１．３％と昨年度比で微増した。 ○通信制の単位修得率は全国平均を上回る水準であった。	○社会生活を営むために必要な基礎学力を養成する。 ○上級学校の入学試験や就職試験に対応できる学力を養成する。 ○「授業は工夫されていてわかりやすい」の肯定的な生徒の回答率が８０％以上である。 ○選択した科目を欠席しない環境を醸成する。その結果、定時制生徒の単位修得率は６５％以上、通信制生徒の単位修得率は７０％以上である。	○授業を工夫・充実させるとともに、まなトレ・課外指導を実施したり、校外模試を活用したりする。 ○毎日の声掛けや個別具体的な支援、教員間の情報交換によるきめ細かい指導を行う。 ○ＩＣＴを活用することで、自分の弱点に応じた個別学習を充実させる。 ○学生教育ボランティア（緑風ソシオ）により学習指導補助を充実させる。			
	意欲向上と自信づくり	○進路意識の高揚が見られている。昨年度アンケートでは卒業後の進路を具体的に考えている生徒は全体で６３％と過半数以上であった。また、進路準備のために何か始めていることがあると答えた生徒は５２％であった。 ○教職員の工夫により、学習意欲の向上が見られた。しかしながら、一部自信がなく将来の希望が持ちにくい生徒もおり、応募先、受験先が決まらないなど苦戦した。	○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を養成するとともに進路目標が明確となる。 ○各種資格試験、検定等に１人１受検を目指す。 ○高校生活が全体的に満足していると感じている生徒が、定時制では６５％以上、通信制では７５％以上である。	○「勉強＋α」を推進する　（α：資格取得等）。 ○各種資格試験、検定のきめ細かい案内。適性のある生徒に対して、個別に受検を勧める。また受検者には個別の支援を行う。 ○特別支援教育支援員が、授業のサポートを行うことで、学習意欲の向上につなげる。			
個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実	生徒の内面を理解し それを生かした指導	○担任をはじめ、ＳＣ（スクールカウンセラー）やＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）、養護教諭による日常的な個人面談やカウンセリングが定着している。 ○入学前不登校であった生徒のうち、半数以上が改善している。 ○不登校対応など生徒支援が多様化しており、生徒理解を踏まえた校内支援体制の一層の充実が必要である。 ○関係職員が連携をとり、生徒の実態を把握するよう努めている。	○生徒情報を共有し、関係職員間で連携をしながら個々の生徒の発達課題に応じた具体的かつ現実的な支援を実行している。 ○全生徒に対し、担任等による面接を年間３回以上実施する。 ○入学前不登校（年間30日以上の欠席）であった新入生徒の状況が改善し、出席状況が前年に比べて向上している。 ○「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒の割合が８０％以上である。 ○生徒の実態把握のための業務が効率的である。	○担任などによる個人面接や日常会話など多くの機会や様々な場面をとらえ、生徒一人ひとりとのかかわりを大切にした指導に努める。 ○教育相談係会を隔週、SC・ＳＳW連絡会を毎月持つことによって、個々の生徒に対する具体的な支援策を策定し実行に移していく。 ○校内支援委員会を活用した組織的な支援により、各部課程をこえた情報共有と個別支援ケースの進捗状況を把握・検討する。 ○医療機関などの各種外部専門機関と連携した支援体制を充実させる。 ○効率よく業務を推進するよう関係職員と連携する。			
	自立をめざす生徒指導	○７９％の生徒が、ルールやマナーを意識した行動をとるよう心掛けているが、その改善が見られたのは６１％であった。昨年度と比較し数値の向上が見られたが、社会的規範を身に付ける必要性を感じつつも行動に移すまでに至っていない状況が見られる。	○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を養成するとともに進路目標が明確になる。 ○ルールやマナー向上の指導をとおして、お互いを思いやる心や自律性と自主性が身についている。 ○ルールやマナーを意識した行動をとるよう心掛けている生徒の割合が８０％以上である。	○進路ガイダンスや進路ＬＨＲ、ＣＡ（就職支援相談員）面談等で自己理解を深めさせ、キャリア設計能力や社会性を育成する。 ○声掛けや挨拶を交わし、言葉遣いや行動等に十分に気を配らせる。 ○規範意識が身に付くように様々な体験活動を取組む。			
視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実	体験活動の活用	○社会体験等、様々な生活体験が不足している生徒が多いため「※はすわらクラブ」をはじめとする体験活動を多く取り入れている。その結果、意欲的に活動する生徒も見られた。 ○各種行事において、生徒会の生徒が中心となり企画・運営を行うことが出来つつある。 ○保護者アンケートから、やりたいことを決めて行動できるとの回答が６５％であり、積極性も備わりつつある。	○部活動やアルバイト等の体験活動に取り組む生徒が年次を追うにつれ増える。 ○生徒会の各種委員会が活発に活動し、各種行事を主体的に計画立案している。 ○環境目標を達成するための具体的実践を全校で進め、省資源・省エネルギー・ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）に関する意識が高まる。	○「勉強＋α」の推進（α：部活動、生徒会活動、アルバイト、インターンシップ、ボランティア等）。 ○委員会の活動内容を示し、生徒会執行部が中心となり、各種行事を主体的に企画運営できるように支援する。 ○「環境管理システム（TEASⅡ）」を適切に運用していく。環境美化に配慮した実践、エコ活動の推進、環境に良い取り組みとして、教職員全員が率先してエコ活動を実践していく。			
	集団への適応力の育成	○高校生活を通して充実した日々を送っている生徒もいるが、人間関係作りや集団活動が苦手なため授業や学級活動、生徒会活動等への参加が消極的になりがちな生徒もいる。 ○全校生徒の７０％が、学校生活において居場所や安心の材料があると感じている。 ○不登校傾向の生徒が一定数いる。	○生徒が授業や学級活動、生徒会活動、学校行事等に積極的に関わろうとする姿がみられる。 ○年2回実施するhyper-QUの「学級満足度尺度」、「学校生活意欲の結果」において、改善がみられる。 ○「学校に居場所や安心の材料がある」と回答した生徒の割合が７５％以上である。	○担任とＳＣ、ＳＳWとの協力によって家庭訪問や校外専門機関との連携を強化して、生徒の人間関係作りを支援する。 ○ひきこもり傾向の生徒に対しても、定期的な家庭訪問等の適切なかかわりを粘り強く継続する。 ○hyper-QUや生徒実態把握の結果を生徒面接やクラス経営に積極的に活用する。			

※はすわらクラブ:学年の枠を超えた多様な体験活動

評価基準　A：十分達成〔100%〕　B：概ね達成〔80%程度〕　C：変化の兆し〔60%程度〕　D：まだ不十分〔40%程度〕　E：目標・方策の見直し〔30%以下〕